

1920年代初期の朝鮮における青年会運動と支配当局の対応

朴 贊 勝

はじめに

三・一運動以降、朝鮮全土にわたり多くの青年会が登場した。これら青年会は、新文化樹立と実力養成を掲げて1920年代初めに展開したいわゆる「文化運動」の最も重要な組織的基盤であったといえる。これまで当時期の青年会運動との関連では、主に、朝鮮青年会連合会の運動や青年運動に関する議論などを中心に研究が進められてきた。この時期の青年運動に対する本格的な研究はまだ十分に進んでいないといつてよい。本稿は、三・一運動以後、本格的に台頭してきた青年会運動の背景、青年会の具体的な組織の様相、青年会の趣旨と活動、青年会運動に対する朝鮮総督府や地方官庁など支配当局の対応を検討し、当時期の青年会運動の性格を概略的ではあれ把握することを目的としている。

この時期に青年会運動が急速に発展した背景として、三・一運動による民族意識の覚醒、「青年層」に対する期待感、改造論などの新思想の導入、新教育を受けた世代の登場、総督府の「文化政治」の実施などが挙げられてきた。しかし、本稿ではそのような巨視的な背景よりも微視的かつ具体的な背景に注目してみたい。具体的にいえば1919年以前に日本と朝鮮で展開した青年会運動が三・一運動以後の朝鮮における青年運動に一定の影響を及ぼした点に注目し、これを整理したい。

青年会の組織については、朝鮮の場合、日本とは異なり、村落（マウル）単位ではなくむしろ郡ないし面単位で青年会が現れたことを検討した上で、それが青年会の趣旨や活動にも影響を及ぼしたことを確認しようと思う。あわせて青年会の趣旨と活動の模様を具体的に検討し、その性格をつかみたいと考えている。

さらに、総督府・地方官庁の青年会運動に対する政策については、どのような政策がどのような過程を経て決定されたのかを具体的に検討する。また、そのことが日本での青年運動に対する日本政府の政策とどのような関連を持っていたのかという点もあわせて検討しよう。本稿では、これらの検討を通して、1920年代初めに朝鮮で展開した青年運動の性格に対する理解を深めたい。

1 安建鎬「朝鮮青年会連合会の組織と活動」（『韓国史研究』第88号、1995年）、同「1920년대 전반기 청년운동의 전개」『한국근현대청년운동사』（폴빛、1995年）、李基勲『日帝下 青年談論 研究』（서울대학교国史学科博士論文、2005年）。